



キウス周堤墓群 1号周堤墓

東北北部・北海道には環状列石(かんじょうれっせき)が分布することが古くから知られていました。主に縄文時代後期前葉から中葉に構築されたもので、大規模なものは数千個にもおよぶ石を、直径30mを超える環状に配しています。投下された膨大な労力は早くから注意され、調査研究の対象となってきました。環状列石は戦後まもなく埋葬に関わる遺構として理解されるようになりましたが、その後、新たな環状列石の発見や既知の環状列石の調査に伴い、墓地だけでなく様々な祭祀に関わる遺跡としてとらえられるようになりました。近年では、大規模な整地が行われたことも明らかになっています。

また、東北北部・北海道以外の地域にもいくつかの環状列石の存在は知られていましたが、特に1990年代以降、調査事例が増え、現在では、その変化がとらえられるようになりつつあります。

周堤墓(しゅうていぼ)は、円形の堅穴(たてあな)の周囲に土を盛り上げ、堅穴内部に複数の墓をつくる縄文時代後期後葉の集団墓地で、北海道の石狩低地帯と道東に分布します。千歳市のキウス周堤墓群はその代表的なもので、周堤の外径が約75m、周堤と堅穴内部の高さの差は最大約5m

という巨大な周堤墓を含んでおり、縄文時代最大級の集団墓地といわれています。

狩猟・採集・漁労を主な生活基盤とした縄文人は、生産を直接に増やす事につながらないにもかかわらず、偉容を誇るといってもよいほどの巨大な構築物—モニュメント—を築きました。だからこそ、環状列石と周堤墓は縄文文化を理解する上で重要な遺跡であると言えるでしょう。展示会では、環状列石と周堤墓を、縄文社会の変動とともに紹介します。

主任学芸主査 中村 哲也

## 特別展 環状列石と周堤墓

縄文のモニュメントとその社会

- 期間 10月21日(水)~12月7日(月)
- 場所 1階特別展示室(大ホール)
- 時間 10月 9:00~18:00  
11月~ 9:00~17:00
- 観覧料 一般 500円(400円)  
高校・大学 240円(200円)  
中学生以下無料、障がいのある方は免除。  
※( )内は20名以上の団体料金。  
こちらの金額で常設展も観覧できます。

# 特別展 環状列石と周堤墓

## 関連イベントの紹介

### (1) 特別展記念講演会

#### 第1回

日時 平成27年11月14日 (土)  
演題 環状列石・周堤墓を築く社会  
講師 北海道大学大学院教授 小杉 康 氏

#### 第2回

日時 平成27年11月21日 (土)  
演題 青森県における縄文時代中期から後  
期の遺跡分布ー環状列石出現の背景ー  
講師 当館職員 中村 哲也  
会場 青森県立郷土館小ホール  
※無料 事前の申し込みは必要ありません

### (2) 小牧野遺跡見学バスツアー

特別展「環状列石と周堤墓」の開催にあわせて、環状列石と展示施設を見学し、環状列石の立地や構造、大規模な労働力が投下された巨大な構築物であることを実感してもらい、特別展の理解の一助とします。

日時 平成27年10月25日 (日)  
平成27年11月 1日 (日)

料金 無料

募集人数 先着25名 (要申込)

申込先 TEL 017-777-1585

FAX 017-777-1588

E-mail E-KYODOKAN@pref.aomori.lg.jp



小牧野遺跡



大森勝山遺跡



鷺ノ木遺跡



大湯環状列石 (万座環状列石)

# 毎年大好評！ 夏休みこどものくに

今年も「夏休みこどものくに」を開催しました。7月26日（日）は「テラリウム」、8月2日（日）は「化石レプリカ」を作りました。今年は青森県埋蔵文化財調査センターでの開催となりました。

「テラリウム」の「テラ」は、ラテン語・イタリア語で「地球」「大地」を意味する言葉です。テラリウム（Terrarium）は、陸上の生物（植物や小動物等）をガラスなどの容器で飼育・栽培する技術で、簡単に言えば小さな地球を作ります。今回は、参加者が用意した容器に砂利を敷き、その上に炭・培養土を入れ、コケや植物・フィギュアを置き完成させるものでした。参加者はみんな、熱心に植物やフィギュアを飾り付けていました。

「化石レプリカ」は毎年恒例になっている人気のイベントで、本物の化石を使って石膏で型を取り、色をつけて自分だけのレプリカを作るものです。色は薄めた墨汁とコーヒーでつけます。コーヒーと聞くと意外に感じるかも知れませんが、石膏にコーヒーの茶色が付くと本物っぽく見えてくるから不思議です。

「夏休みこどものくに」は毎年恒例のイベントなので、興味のある方は是非来年度参加してください。

主任研究主査 豊田 雅彦



テラリウム



墨汁とコーヒーで化石レプリカに色塗り

## 今年度一番の盛り上がり！

# 岩合光昭写真展 **ねこ歩き**



開幕式の様子



県内で撮影されたねこ ©Mitsuaki Iwago

平成27年7月11日（土）から8月23日（日）まで、「岩合光昭写真展 ねこ歩き」が開催されました。

初日には、朝早い時間から開幕を心待ちにされていたお客様の長い列が入口の前でできました。会場には、動物写真家・岩合光昭さんがこれまでに世界で撮影した「世界のねこ」の他にも、県内で撮影された「津軽のねこ」の写真もあり、計237点もの愛らしいねこの姿に多くのお客様が癒されていたようでした。

2日目には岩合光昭さんによるギャラリートーク＆サイン会も行われました。ギャラリートークでは岩合さんが国内外での撮影秘話をパネル写真と共に紹介し、「撮影するときは這いつくばり、ねこの目線になっている」などとねこを撮影する際のコツを語り会場を沸せていました。サイン会では写真集を購入してくださったお客様一人ひとりに笑顔で握手をする岩合さんの姿が印象的でした。

また、当館に寄せられたアンケートには「また開催してほしい!」、「ねこがかわいかった!」という声が多数届いており、職員一同大変嬉しく思っております。

# 平成27年度 土曜セミナーのご案内

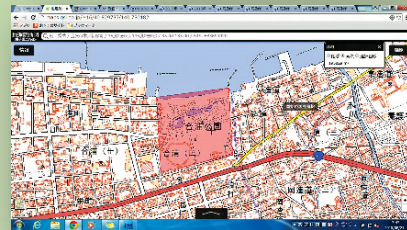
郷土の歴史・文化・自然などについて当館の職員やゲストキュレーターがわかりやすくお話ししますので、どうぞお気軽にご参加ください。

- 【日時】 毎週土曜日 13:30～15:00
- 【場所】 郷土館小ホール
- 【料金】 無料

(※は事前申込みが必要な講座になります。)



- 10月 3日 特別教室「青森の達人にふれあう1」(落語)
- 10月10日 特別教室「青森の達人にふれあう2」(フラワーアレンジ) ※
- 10月17日 特別教室「青森の達人にふれあう3」(和楽器)
- 10月24日 バルネオハイランド(カリマンタンビュー)の旅
- 10月31日 戦後の現代美術
- 11月 7日 本を愛でる 蔵書票
- 11月14日 特別展講座1「環状列石、周堤墓を築く社会」
- 11月21日 特別展講座2「青森県における縄文時代中期から後期の遺跡分布—環状列石出現の背景—」
- 11月28日 特別展講座3「世界遺産へのあゆみ～保存と活用」
- 12月 5日 特別展講座4「環状列石に使われた石」
- 12月12日 津軽為信といくさ
- 12月19日 おらほのネブタ
- 12月26日 1100年前に起こった十和田火山の大噴火
- 1月 2日 休館日
- 1月 9日 泥炭とひとびとの暮らし
- 1月16日 大中小展関連講座「小さな天地創造」(仮) ※
- 1月23日 青森県誕生のころ～青森縣治一覧概表～
- 1月30日 ザリガニの面白い話
- 2月 6日 青森県産出の新第三紀哺乳類化石
- 2月13日 未定
- 2月20日 青森県の交通史
- 2月27日 博物画あれこれ
- 3月 5日 土器を読む2
- 3月12日 县市町村の歌について(仮)
- 3月19日 津軽名物「まんじゅうの化石」



## 大・中・小

### ～暮らしの中のスケールあれこれ～

12月19日(土)より、企画展「大・中・小～暮らしの中のスケールあれこれ～」を開催します。わたしたちの身の回りには、大・中・小、さまざまなスケールの動植物や道具、事象があり、それぞれ深くつながっています。そのなかでも、なみはずれて大きいものや、小型化したものに注目して、「天」(人知を越えた異界)、「地」(動植物がすむ自然界)、「人」(人間の歴史と生活)の三つの世界に分けて紹介し、暮らしのなかにひそんでいた意外なスケールを再発見していきます。

主任学芸主査 小山 隆秀

## 秋の郷土館ウィーク

10月25日(日)から11月1日(日)の期間、郷土館ではさまざまな企画を行います。

期間中、来館されたお客様には景品のプレゼントがあり、10月25日(日)には網信岳氏と井上弘之氏によるヴァイオリン・チェロ演奏会、コーヒーカラーズ新町店のオーナー木村希士氏によるコーヒー文化を楽しむ講演会(当日はコーヒー豆の販売や試飲サービスもあります。)が開催されます。

10月31日(土)と11月1日(日)には東北文化の日に関連して全館観覧料無料とし、登録有形文化財である、当館旧館部分の解説案内を特別に行います。

この機会にぜひ郷土館に足をお運びください。

